

## 地域の寛容性に着目した観光地におけるイノベーション人材の定住要因：福岡市近郊の糸島市と福津市を事例として

岡, 祐輔

<https://hdl.handle.net/2324/6787692>

---

出版情報：Kyushu University, 2022, 博士（学術）, 課程博士

バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏 名 : 岡 祐輔

論 文 名 : 地域の寛容性に着目した観光地におけるイノベーション人材の定住  
要因 —福岡市近郊の糸島市と福津市を事例として—

区 分 : 甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

本研究では地方創生の主要な戦略の一つである観光まちづくりにおいて、地域外人材が移住・起業先で経済的効果、社会的効果の両面で新たな付加価値を付与していくことなどで、地域で重要な役割を担っていることに着目した。そして、地域外人材が比較的多いとみられる都市近郊の観光地を事例として、地域外人材のうち、とりわけ、移住・起業し、新たな地域活動を起こすイノベーション人材の定住や事業継続の要因について検討した。既往研究からは、イノベーション人材は、技術や知識といった自らの能力を発揮したいといった性格因子である「経験の開放性」を有しており、彼らを地域につなぎとめる要因として、地域の寛容性が重要であるとされてきた。これに対して本研究では、地域の寛容性の具体例として、物質的な支援である不動産の貸借に加え、情緒的・評価的・情動的な支援として、起業やコミュニティ関係の相談、人材などの紹介といった地域側の行動を取り上げて検討した。さらに観光まちづくりの社会的効果としての人脈の拡大、地域への愛着の向上やシビックプライドと呼ばれる地域住民の誇りの醸成が寛容性を高め、このような地域側の行動として発現すると考えられることから、観光地化に伴う地域の成長過程に注視して考察を行った。

第1章では研究の背景として、日本における観光の位置づけ、地域における観光の役割、観光のまちづくりにおける地域外人材の必要性や彼らの移住、起業、定住に関わる課題を述べた。観光まちづくりは、観光客や観光収入の増加、地域経済の活性化だけでなく、多くの社会的効果が期待され、地域の寛容性を高める活動である。また、観光まちづくりは、地域内に新たな知識や技術をもたらし、連続的な地域イノベーションを起こす契機となる地域外人材と地域内関係者との相互作用が必要であり、地域外人材の多様性を受け入れる地域側の寛容性が地域活性化の重要な要因になる可能性を述べた。

第2章では、近年観光客および働き盛り世代の移住者が増加している福岡県糸島市を対象にし、同市との比較検討を行うための福岡県福津市津屋崎地区の事例を選定した理由を示し、観光まちづくり活動に関わる移住・起業家へのアンケート調査およびイノベーション人材、地域住民へのインタビューの方法について説明した。

第3章では、移住・起業家や受け入れ地域側の支援動機を検討するにあたり、糸島市の歴史、経済状況などの背景を説明した上で、観光地の形成要因について、福岡都市圏の他の地域と比較しつつ、観光客の増加や観光業の発展における過程を説明した。

第4章では、イノベーション人材を特定して分析する前に、糸島市における移住・起業家全体の意識や行動を把握するため、観光業の発展に際して主要な事業主体と考えられる事業者に対してアンケート調査を行い、移住者以外も含めて包括的、定量的に比較、検討した。その結果、出店後における事業継続の満足度を高める重要な要件であった事業者間の交流や人脈に着目し、同業・類似業種の人からの相談を受ける人とそうでない人の比較を行ったところ、相談を受ける人では経営状況によらず満足度が高かった。相談を受ける行為は地域貢献といった自身の経験の開放性にも関連

するとともに、移住・起業者にとって受け入れ地域側の支援としても捉えられ、これらの新規の移住・起業者との関係性が地域の寛容性の背景となっていた。

第5章では、糸島市の観光地化において、観光業の発展に影響を及ぼしてきたイノベーション人材に対し、どのような動機により同市にて移住・起業し、定住してきたのかインタビュー調査を実施した。観光客および観光業が増加した2000年代以降の年代ごとの移住・起業者らの行動における内的動機と地域側に求めた外的環境にわけて分析した。その結果、移住時は福岡市との近接性や自然環境といった要因を重視していた一方、定住し、事業継続する段階に進むにつれて、経験の開放性を内的動機として強く持つようになり、それを受け入れてくれる地域の寛容性をより求め、福岡市の近接性や自然環境ではなく、人脈や多様性といった要因を重視するようになっていた。また、年代が進むにつれ、外的環境をより活用する傾向が表れており、このような地域の寛容性を重視する傾向にあった。一方で、受け入れ側の住民における、相談、紹介、空き家の賃貸といった支援行動は、地域活性化に貢献できるという意識が働いていたことが明らかになった。

第6章では、観光地化による経済的、社会的効果と寛容性の関係を検証するため、福岡県福津市津屋崎地区の地域外人材と地域住民の意識を検討した。糸島市とは異なり、福津市津屋崎地区では観光による経済需要は小さく、移住・起業者の規模や人脈・交流の広さの違い、その中でも経営の相談を受けるような事業者数が少なく、後から来る移住・起業者を支援する人材は限定的であった。しかし、イノベーション人材と想定される移住・起業者の後に移住・起業した人たちは、起業や定住の段階において、イノベーション人材の支援を受けたり、地域の文化を保存したい、地域経済を活性化したい、といった地域活性化のために行動する住民の支援を受けることによって、地域の寛容性を感じる要因につながっていた。また、観光客の増加や地域活性化した年代の経過とともに、地域側の寛容性が強く表れる傾向が確認できた。

全体の結論として、イノベーション人材が意識した寛容性の具体的な行動として、地域の事業者間における移住・起業、経営などの相談、人材や物件の紹介といったサポートが表出化し、また地域住民においても、物件の紹介、新たな地域イベント設立の支援といった行動が表れていた。また、このような支援行動が、イノベーション人材の満足度を高め、それらの人々を地域にとどめ、経験の開放性を促進していることを明らかにした。

地理的条件として、観光地化が進んだ地域では、観光による経済規模や移住・起業者数の規模が大きく、イノベーション人材も多く存在し、地域の事業者間や住民の相談や紹介といった行動が地域内で多発している。一方で、観光地化が進んでいない地域では、このような効果が得られにくく、少数のイノベーション人材のみによる効果は限定的で、特に初期には寛容性が発揮されにくい。ただし、このような地域においても、観光化や地域外人材の移住・起業が進む中で、先に移住・起業した先住者や事業者らが新規に移住・起業する人の架け橋となっていた点や、観光化の進展にともない受け入れ側の住民の中にも地域への愛着やシビックプライドの醸成がなされていた点を指摘した。